

仲秋の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員諸兄におかれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

また皆様には日頃より当支部運営に当たり、一方ならぬお力添えを賜り、深甚なる敬意を表する次第です。

さて先月の自衛隊関連行事は特になく、20日の夜に宮崎県偕行会の「三水会」が開催された位で、真方会長や植村地本部長等の皆様と愉しく懇談させて頂きました。

ところで28日の臨時国会冒頭、安倍首相は衆議院解散を宣言し「政権選択の総選挙」に突入いたしました。

民進党は解体し希望の党に併呑され、あれだけ反対した民進党の現職議員達は公認欲しさに「安保関連法案の賛否」について踏み絵を踏まされているようです。

今まで民進党と共闘してきた「市民連合」なる怪しげな団体も同床異夢と気付かされ、共産党の志位委員長も希望の党に合流した民進党には「失望」された事でしょう。

この解散総選挙は云うまでもなく対北朝鮮問題が最大のテーマであり、我々国民も「国防」と云うこれまでタブー視されていた課題と真剣に向き合わねばなりません。

日米安保条約に基づく米国の核の傘に頼り切っていた日本の安全保障は、北朝鮮や中国、ロシアそして韓国問題等で、刻々と緊迫の度合いを深めているようです。

いざと云うときに自衛隊が後顧の憂い無く存分に働けるよう、先ずは憲法改正をして有事に備えるべきかと、最近つくづく考えさせられるのは私だけなのでしょうか？

今月も小川先生のメルマガの中から一部転載致しますので、何卒ご一読下さい。

## ・北の核ミサイルが日本を狙う可能性

北朝鮮が8月29日朝発射した中距離弾道ミサイル（IRBM）「火星12」は、人工衛星打ち上げを目的としない北朝鮮のミサイルとしては、初めて日本上空を飛行した。ミサイルは平壤順安《ピョンヤン・スナン》空港から発射され、防衛省によると北海道の渡島半島と襟裳岬の上空を太平洋に向けて通過、水平距離2700キロを14分間で飛行し、最高高度は約550キロに達した。

この数値から、燃焼終了時のミサイルと地表の水平面の間角度は約37度、大気圏に再突入して減速する直前の速度は秒速4.6キロと計算できる。[1] この弾道は、水平距離を最大化する**最小エネルギー軌道に近い**が、米国を過剰に刺激することを避け

るため、**燃焼を早目に止める**などの方法で、**射程を短縮**したと考えられる。

日本上空の区間は、弾道の頂点付近の**宇宙空間**だったので、**領空侵犯はなかった**。しかし、船舶や航空機の安全を確保するための予告はなかったし、そもそも弾道ミサイルも宇宙ロケットも、北朝鮮が発射することは**国連安全保障理事会の決議に違反**している。

**平壤郊外**から弾道ミサイルを発射する能力を示したことは、米国が発射前の**ミサイルを攻撃**しようとした場合、**民間人が巻き添え**になる可能性と、北朝鮮側がミサイルへの先制攻撃を**体制への攻撃**と区別できずに**全面戦争**に至る可能性を、米国側へ突きつけることによって、**攻撃を抑止**する効果がある。

北朝鮮は**日本へ届くミサイル**を、1990年代に開発したノドンをはじめ、**すでに複数種類配備**している。それなのに、日本を優に飛び越える一方で、米本土にもハワイの主な島にも届かない火星12が、5月14日に続いて試射されたからといって、**なぜ日本への脅威が高まる**のだろうか。

その理由は、北朝鮮が核兵器を使用する場合にもっとも合理的な目的、行動、戦力の組み合わせ、つまり**北朝鮮にとって合理的な核戦略**にある。

それは、なんらかの原因で戦争が始まった場合、または始まりそうだと北朝鮮が判断した場合、まず**射程の短い核兵器**を使用し、「**停戦しなければ射程の長い核兵器も使用する**」と警告することによって、米国に**停戦を強制**しようとする核戦略である。北朝鮮がさまざまな射程のミサイルをそろえると、日本の米軍基地や都市への攻撃も含めて、この核戦略の**選択肢が増える**。

この核戦略は、通常戦力が劣っており、敗戦した場合は体制が倒れる国が採用するものだが、**冷戦中のNATO**（北大西洋条約機構）も、**ソ連軍の欧州進攻を抑止**するため、同じような核戦略をとっていた。

ソ連軍が西ドイツなどへ進攻し、通常戦力による防衛が困難になったときに備えて、NATOはまず**前面の敵と戦う**ための、核砲弾やラング・ミサイル（射程120キロ）などの**戦術核兵器**を配備した。そして、NATOが戦術核を使用してもソ連が停戦しない場合、次第に**後方の部隊や司令部を攻撃**し、**全面核戦争の可能性を警告**するため、パーシング弾道ミサイル（射程740キロ）、パーシングII（射程1770キロ）、地上発射巡航ミサイル（射程2500キロ）といった**戦域核兵器**も配備した。戦闘機用核爆弾には、戦術・戦域両方の任務が与えられた。

このように、北朝鮮が核ミサイルを多様化することには一定の合理性がある。北朝鮮は米国が巨大な脅威であり、過去に北朝鮮との約束を破ってきたと認識しているので、核開発を続ける必要がないと北朝鮮に示すためには、在韓米軍を撤退させるほどの大きな譲歩が必要となるだろう。そのような譲歩を北朝鮮が獲得した場合、韓国を武力で挑発しても米軍は関与しないと認識することは確実で、日本についてもそのように認識するおそれが生じる。そのような事態を日本が回避するためには、米国にとっての日本列島の戦略的重要性を、それも日米が足並みを揃えて北朝鮮に突きつけ続けるしかない。以上（静岡県立大学グローバル地域センター特任助教・西恭之）

閑話休題、久し振りに中山成彬先生の面目躍如たる記事をYAHOOで見つけましたので、以下にご紹介致します。(笑)

小池百合子東京都知事が代表を務める国政新党「希望の党」から衆院選に出馬する意向の中山成彬元文部科学相が28日、自身のツイッターに「安倍（晋三）首相の交代は許されない」と投稿した。政権交代を目指す戦いを控え、現政権の存続を求める異例の訴えだ。

衆院選に向け民進党は希望の党に事実上合流するが、これについても中山氏はツイッターで「私達の小池新党合流から始まった今回の騒ぎに前原（誠司）代表は右往左往。言うだけ番長の面目躍如」と民進党のトップを痛烈に擲（や）揄（ゆ）した。

その上で「(民進党の)辻元（清美）氏等と一緒になんて冗談じゃない」とし、希望の党のバラバラ感を早くも露呈させた。

中山氏の妻は日本のこころを離党した中山恭子参院議員で、27日の希望の党設立の記者会見にも参加し、オリジナルメンバーに名を連ねている。

流石中山先生と拍手を送りたくなるようなツイッターですが、正に真正保守を体現されて来られた方ならではのご発言と承りました。

もともと民進党は選挙互助会的性質が強く、右から左まで全く主義思想の異なる人達が「連合」頼みで政党助成金や議員バッジ欲しさに、党名を変えながら離合集散を繰り返しているようにしか見えません。

また希望の党が「寛容の保守」を目指すなら、先ずは自民党と政策協議を行い外交や防衛、そして憲法等の基幹事項の擦り合わせが必要かと存じます。

もっとも保守二大政党の誕生は我々の大いに望むところであり、社民党は共産党の補完勢力になるらしいので、国民にとっては判りやすい選挙になる事でしょう。

平成29年10月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦

